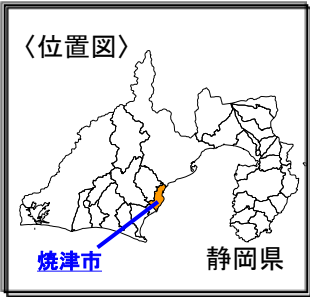


基盤整備による取組事例 [静岡県焼津市]

1. 地域農業の状況

- 焼津市は静岡県中部に広がる志太平野に位置し、温暖な気候で大井川を水源とする豊かな水など自然条件に恵まれている。
- このような地形条件を生かして、水稻を主な作目とした土地利用型農業や水稻に施設野菜、施設花卉、梨などを組み合わせた複合農業経営が展開されている。
- 近年、市内の農地においては、集落の都市化や農産物の価格低迷、農業者の高齢化、後継者不在などにより、農業離れや兼業化が進み、耕作放棄地が増加している。
- 当該地区は、昭和40年代に土地改良事業が実施されたが、排水不良により機械化が困難なため作付けがなされず耕作放棄地となっていた水田で、灌木の繁茂やゴミの不法投棄も多く、地域の懸案となっていた。



再生前の状況

背丈以上に伸びた草が繁茂し、灌木もあちらこちらに見られる状態

耕地面積	1,560ha	総農家数	2,441戸
田耕地面積	1,270ha	自給的農家数	1,147戸
畑耕地面積	286ha	販売農家数	1,294戸

資料：耕地面積統計（H26年）、2010年農林業センサス（農林水産省）

2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体	藤守地区耕作放棄地解消基盤整備事業推進協議会
再生面積	4.4ha
作付作物	水稻（酒米）

地区名	藤守地区
取組年次	平成23年～
販路	契約販売

1 再生のきっかけ

- 本地区で稲作を営む農家から行政機関に、隣接する耕作放棄地を再生し、農地の集積と経営規模の拡大を図りたいとの申し入れがあった。
- 県は、国や県の各種支援事業を活用するため、耕作放棄地の解消に苦慮していた地権者、規模拡大を目指す水稻農家、焼津市等関係機関をコーディネートし、藤守地区耕作放棄地解消基盤整備事業推進協議会の設立を支援したほか、（株）クボタの社会貢献活動である「クボタeプロジェクト」の耕作放棄地再生支援の協力を得ることで、再生事業の実施体制を構築した。

2 関係機関との連携による耕作放棄地の解消

- クボタeプロジェクトによる草刈作業に先立って、協議会メンバー等関係者の人海戦術によりゴミの撤去作業が行われた。草刈作業後、客土や排水対策などの基盤整備は、国交付金や県事業（県単独耕作放棄地解消基盤整備事業）を活用して行った。

3 再生後の取組

- 焼津市は、県農林技術研究所が開発した酒米品種「誉富士」が生産されている主産地。
- 藤守地区協議会長の八木氏は、解消した水田4.4haで「誉富士」を栽培することで、栽培面積は8haとなり、県内最大の誉富士栽培農家となった。

活用した支援策

H23～H24 クボタeプロジェクト（（株）クボタ）（草刈支援）
H24～H25 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金（国）
H24～H25 県単独耕作放棄地解消基盤整備事業（県）
H23～H24 公共工事建設発生土利活用（県）（客土）



再生後の営農状況